

めぬまこじまちく し 妻沼小島地区を知る①



めぬまこじまちく れきし 「妻沼小島地区」の歴史

めぬまこじまちく くまがやし なか とねがわ きたがわ
 妻沼小島地区は熊谷市の中で利根川の北側にある市内唯一の地域です。「小島」という地名は「小嶋」と表記されていた時代もあり、約800年前の鎌倉時代初期にその名称が登場します。その頃から室町時代にかけて現在の群馬県にあたる上野国になったのち、いちはぐ ぞく ほかにしな ちいき 新田荘の一部に属していました。他の市内の地域と同様に、小島村が現在の埼玉県にあたる武蔵国になるのは江戸時代に入ってからのこととなります。

● 小島地区と小島小中学校の歴史

時代・年号	内容
へいあん じたい 平安時代 むろまち じたい ～室町時代	こうぜけのくににつたのしょう こじまごう ぞく 上野国新田荘小嶋郷に属する。 かまくら じたいしよき こじまむら ひょうき のこ 鎌倉時代初期に小嶋村との表記が残る。
えど じたいぜん き 江戸時代前期	むさしのくに は らぐん へんにゆう 武蔵国幡羅郡に編入する。
めいじ ねん がつ 明治6年6月	くまがやけん ぞく 熊谷県に属する。
めいじ ねん がつ 明治6年11月	こじまそんりつ こじましようがっこう いおう じ かいこう 小島村立小島小学校を匡王寺に開校。
めいじ ねん がつ 明治9年8月	さいたまけん はたらぐん ぞく 埼玉県幡羅郡に属する。
めいじ ねん がつ 明治22年4月	おぬま たい で きしま ままだ こじま 男沼、台、出来島、間々田、小島の かくそん がっぺい おぬま 各村が合併し、男沼になる。
しょうわ ねん がつ 昭和22年4月	おぬまそんりつ こじましようがっこう かいしょう おぬまそんりつ こ 男沼村立小島小学校と改称。男沼村立小 じまちゅうがっこう どうしようがっこうない へいせつ 島中学校を同小中学校内に併設。
しょうわ ねん がつ 昭和30年1月	ちようそんがっぺい めぬまちようりつ こじましようがっこう 町村合併により、妻沼町立小島小学校と かいしょう めぬまちようりつ こじまちゅうがっこう かいしょう 改称。妻沼町立小島中学校と改称。
へいせい ねん がつ 平成2年4月	こじましようがっこうこうしんしんちく 小島小中学校校舎新築。
へいせい ねん がつ 平成17年10月	ちようそんがっぺい くまがやしりつ こじましようがっこう 町村合併により、熊谷市立小島小学校と かいしょう くまがやしりつ こじまちゅうがっこう かいしょう 改称。熊谷市立小島中学校と改称。
へいせい ねん がつ 平成22年4月	こじましようがっこうきゆうこう 小島小学校休校。
へいせい ねん がつ 平成23年4月	こじまちゅうがっこうきゆうこう 小島中学校休校。

こじまむら かみ こじま しも こじま ちいき わ
 小島村は上小島と下小島の地域に分かれていま
 めいじ じたい こじまむら とねがわ みなみがわ おぬま
 した。明治時代に小島村は利根川の南側にある男沼
 りがっぺい のち しょうわ じたい めぬまち へいせい じ
 村に合併した後、昭和時代には妻沼町に、平成時
 代に入ると熊谷市となりました。現在、旧小島村の
 ちいき めぬまこじまちく めいしょう
 地域は妻沼小島地区という名称になりました。妻沼
 こじまちく ぐんまけん おおたし かく こじま いち
 小島地区は群馬県太田市に囲まれるように位置し、
 みなみがわ とねがわ きたがわ いしだ がわ へびかわ なが
 南側に利根川、北側に石田川と蛇川が流れています。

めぬまこじまちく とねがわ 妻沼小島地区と利根川

めぬまこじまちく ひとびと せいかつ こらい とねがわ
 妻沼小島地区の人々の生活は、古来より利根川
 なが
 の流れとともにあります。現在、妻沼小島地区で
 しゅうかく やさい
 収穫されたヤマトイモなどの野菜は、熊谷を代表す
 のうさんぶつ ひろし おい やさい
 る農産物として広く知られています。美味しい野菜
 そだ えいようぶん おお とち とねがわ
 を育てる栄養分の多い土地は、利根川によってもた
 らされました。

ほかに えど じたい とねがわ なが い しゅう
 その他、江戸時代は利根川の流れを生かした舟
 うん さか げんざい ぐんまけん せいさん もくざい
 運により栄え、現在の群馬県などで生産された木材
 こくもつ やさい こうげいびん えと ほこ かし
 や穀物、野菜、工芸品などを江戸に運ぶための河岸
 ば ぼう
 場が設けられていました。

めぬまこじまちく とねがわ ゆうだい なが おんけい
 妻沼小島地区は利根川の雄大な流れからの恩恵
 う いっぽう かわ なが ひとびと せいかつ くる
 を受ける一方で、川の流れが人々の生活を苦しめる
 こともありました。それは大きな洪水や大水によっ
 て、人々の住まいや野菜なども流されるなど大きな
 ひがいの 被害を受けました。

ちく ない しんめいじんじや いなりじんじや ひとびと しんこう
 地区内の神明神社や稲荷神社は、人々の信仰の
 ばしょ すいなん お
 場所となり、水難が起きないように、そして洪水がなく、
 ぶじ のうさくぶつ しゅうかく おお ねが こと
 無事に農作物が収穫できるよう、多くの願いが込め
 られてきました。

しょうわ ねんだい めぬまこじまちく とねがわ あいだ
 昭和20年代になると妻沼小島地区と利根川の間
 おお ていぼう つく ひがいの う すく
 には、大きな堤防が作られ、被害を受けることは少
 なくなりました。

くまがやしりつこうなんぶんかざい やました ゆうき
 熊谷市立江南文化財センター 山下 祐樹